

「誰一人取り残さない」という思いで頑張ります

KOUBUN NEWS VOL.2

November 2022

県政活動報告

茨城県議会議員

幡谷好文

こうぶん



本会議場にて一般質問を行う(令和4年9月12日)

特集 9月定例茨城県議会において

幡谷好文が 一般質問を行いました

幡谷好文の質問項目

- ① 自殺予防対策について
- ② コロナ禍からの回復に向けた茨城空港の利用促進について
- ③ 農林分野におけるバイオマスの利活用について
- ④ 国道6号小美玉道路(仮称)の進捗状況について
- ⑤ 水害に備えた対策について
- ⑥ ICT教育の充実について
- ⑦ 中学校の部活動の地域移行について
- ⑧ 県立特別支援学校の環境整備について

質問の様子は下記の動画でもご覧いただけます



録画中継

茨城県と小美玉市の現状と課題解決に向けて!

水害に備えた対策について

頻発する集中豪雨や台風による水害から市民を守るため小美玉市内の河川の維持管理について質問しました

答弁概要(答弁者:土木部長)

小 美玉市内を流れる巴川と園部川については、段階的に整備を進め、一定の治水安全度を確保しているところである。

これらの河川の点検や気象警報発令後のパトロールにより、現地の状況を確認し、対応を要する箇所については、緊急性や重要性の高い箇所から、護岸や堤防の補修、堆積した土砂の撤去を行うなど、適切な維持管理に努めており、具体的な対応として、平成31年度に巴川の柴高地区における堆積土砂の撤去、令和3年度に園部川最下流部の川中子地区における堤防の補修を実施したところ。

今後も、ドローンやICTなどを活用して、堤防の沈下状態や河道内の土砂堆積状況など、河川の洪水危険度をより効率的に把握し、堤防の補修や堆積土砂の撤去など、引き続き取り組んでいく。

一方で、近年では、流域全体であらゆる関係者が協働して治水対策を行う「流域治水」の取組みが大変重要となっており、河川改修や適切な維持管理により氾濫をできるだけ防ぐ「河川対策」、水田やため池の治水利用の促進などによる「流域対策」、洪水浸水想定区域図の策定や、マイ・タイムラインの作成促進、水防団活動の啓発などによる「被害軽減対策」など、ハード・ソフト両面からの対策を流域全体で総合的に進めてまいります。

小美玉市を含む霞ヶ浦流域においては、「霞ヶ浦流域治水プロジェクト」を令和3年3月に策定し、ハード・ソフトが一体となった対策を進めている。

今後も県による維持管理のための現況把握と対応の状況に注視し、自主防災の取り組みについても県と市の連携促進をしていきます!

ICT教育の充実について

インターネットやタブレット端末を用いた新しい学びを実現するために学校教育現場におけるソフト面の課題について質問しました

答弁概要(答弁者:教育長)

S ociety5.0時代を生きる子供たちにとって、社会に通じるICTを活用する力を身に付けていくことは、大変重要であると認識している。現在県においては、ICTを活用した、協働的な学びのモデルを「新しい時代における子供たちの学びのスタイル」として、教科ごとに例示し、すべての学校で活用している。

また、1人1台端末を活用して新たな学びを創造する「学びのイノベーション推進プロジェクト」においては、昨年度から、この学びのスタイルに基づいたモデル授業を公開し、新しい学びのスタイルの実現に向けて、授業方法の改善に取り組んでいる。このようなICTの使い方を学べる授業を、効果的に実施するためには、指導にあたる教員一人一人のスキルアップが必要であり、今年度、「いばらきスタディエクス推進事業」を新たに立ち上げ、国や市町村と連携し、教員のICTスキルを育成する研修を進めている。

具体的には、文部科学省のGIGAスタディエクス推進チームの専門家から、全国の授業の先進事例を踏まえたICTスキルの向上の方策について直接指導や、市町村のニーズに応じた研修を実施。さらに、各市町村には学校のICT活用を指導する「市町村推進リーダー」、各学校には教員を指導する「ICT校内推進教師」の配置。全ての公立学校の教員が利用できる県独自のポータルサイトを開設し、授業で利用可能な学習教材や優良事例等を共有することで、授業の質の向上に努めていく。こうした取組により、誰一人取り残すことのない個別最適な学びや創造性を育む学びの実現に向け、ICT教育の充実に取り組んでいく。

目指すべき子供たちの学びの環境を早期に実現できるよう、小美玉市の地域性に配慮した要望をしていきます!

県立特別支援学校の環境整備について

小美玉市内の生徒が市外特別支援学校へ通う現状や今後も増加が予測される特別支援教育の必要性をふまえた環境整備について質問いたしました

答弁概要(答弁者:教育長)

少 子化が進む一方、特別支援学校に在籍する児童生徒数は増加する傾向にあり、県では、令和2年に「いばとくプラン」を策定し、主に校舎の増築を行うほか、必要に応じて通学区域を見直すなど、特別支援学校の不足教室解消のために環境整備を推進してきた。

内原、鹿島、つくば特別支援学校における校舎の増築工事や通学区域の一部変更などをもって不足教室の解消策は全て完了する見込みである。

児童生徒のスクールバスでの通学について各校の状況を把握するためヒアリングを実施し、児童生徒の居住地や乗車時間を考慮しながら、学校まで最短となるようスクールバスのルート进行调整するほか、途中の停留所を見直して通学時間を短縮するなど、毎年度改善を図っている。

また、バス乗降時の補助や運行中の安全確保のための介助員を必要に応じ2名配置し、負担を少しでも軽くするよう配慮している。

特別支援学校の新設につきましては、今後の中長期的な児童生徒数の推移をしっかりと見極めるとともに、議員ご提案の廃校の活用を含めて、県全体の特別支援学校の在り方を検討していく。

特別支援学校に通う児童生徒一人一人が、快適に学校生活を送ることができるよう、引き続き、教育環境整備に取り組んでいく。



引き続き小美玉市内における新たな特別支援教育の環境整備を要望してまいります!

幡谷好文 一般質問 初登壇!

9月12日、第3回定例議会において一般質問に登壇いたしました。今回の一般質問では私自身これまでの政治活動で感じた地域の課題を取り上げ、未来志向へとつながる要望を出させていただきました。政治テーマである「郷土を守る」「次代へつなぐ」に紐づいた「自然災害に対する県政の対応」や「学校教育ならびに特別支援教育のソフト・ハード両面から子供たちのための環境整備」を中心に市民の皆様の生活基盤をよりよくするための指摘をさせていただきました。具体的には「茨城空港や国道6号バイパスなどの交通インフラ」「バイオマスによる地域資源を生かした再生可能エネルギー」「社会不安を解消するセーフティーネット」などについても現状の課題を踏まえ、その対策と展望について要望いたしました。今後も小美玉市を取り巻く環境を中心に茨城県のさらなる発展のため「変化はチャンス」という成長マインドを持って取り組んでまいります。

幡谷 好文

活動報告 8月

9月

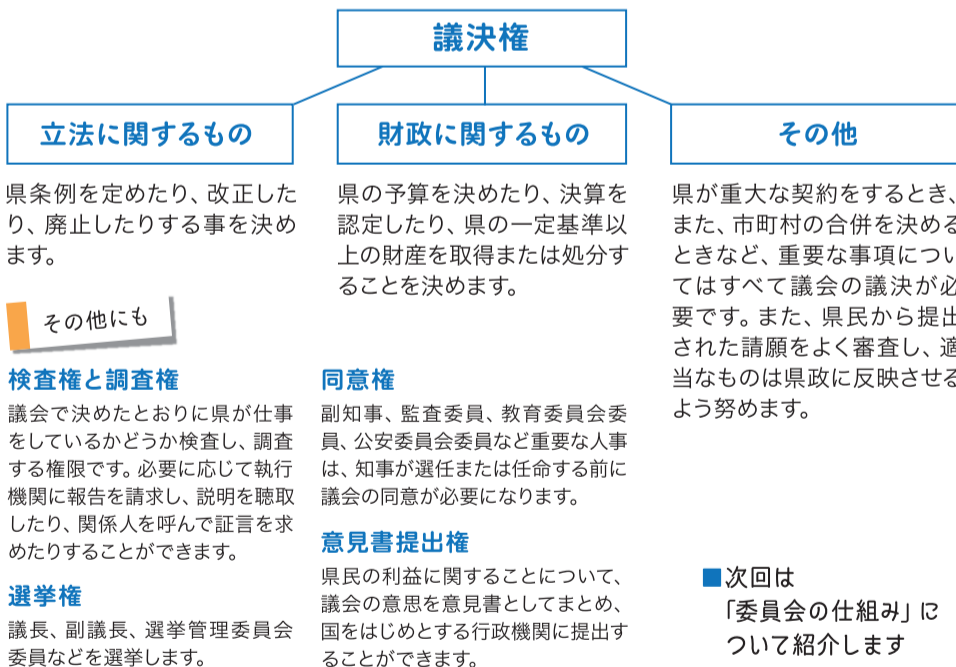
10月



おしえて! 好文

第2回 県議会ではどんなことが決められるの?

県民から選ばれた県議会には与えられた「議決権」があります。→議会に与えられた最も重要な権限で、大きく3つに分かれます。



おみたま TOPIC

小川南小学校の6年生が県庁に来てくれました



9月26日、小川地区交通少年団創立50周年記念研修会として小川南小学校の子どもたちが茨城県警・県庁の見学に訪れました。短い時間ではありましたが県議会についての説明をさせていただきました。真剣に話を聞いてくださった子どもたちに感謝です。

小美玉市スポレクデー 2022 参加いたしました



10月10日、天候が心配されたスポレクデーでしたが無事に3年ぶりの開催、現場を視察しました。県民の健康増進のためのきっかけとして楽しく参加できるイベントの重要性を感じました。

常任委員会レポート

9月15日 令和4年 第3回定例会

県事業の補正予算の審議等を行いました。原価価格・物価高騰等への対応を配慮した内容となりました。



10月19日 県内調査実施

新規にネーミングライツを導入した「楽天Kドリームスバンク取手」（旧取手競輪場）と官学連携を行う龍ヶ崎市役所を視察しました。

活動情報配信しています!



YouTube facebook Instagram